

尾張旭市消防本部

救 急 救 命 講 習

令和8年4月6日 尾張旭市消防本部にて、救命講習を受講しました。
弊社乗務員・事務員が参加して、消防本部講師による
応急手当の目的や必要性などの説明、胸骨圧迫による心肺蘇生の実技、
AEDの使用方法的説明及び実技等を学習することができました。
不測の事態に対応できるよう、必要な知識の習得・実技訓練が重要
であることが再認識できる講習となりました。
愛知ドリームはこのような講習・訓練を繰り返して、
地域の皆様に安心してご利用頂けるバス会社になれるよう努めて参ります。



～普通救命講習Ⅰ・救命入門コース（成人）～

1 反応の確認（3回）

※確認の際は傷病者の顔と救助者の顔があまり近づきすぎないようにする。

○「もしもし？」と声をかけ、両肩をたたいて反応を確認する。

2 救急車・AEDを依頼する

○周りの人に「①119番し、救急車を呼んでください、

②AEDを持ってきてください、

③人を大勢呼んで下さい。」と依頼する。

3 呼吸の確認

※観察の際は傷病者の顔と救助者の顔があまり近づきすぎないようにする。

○普段どおりの呼吸をしているか、胸や腹部の動きを **10秒以内**で観察する。

○分からない場合は「呼吸なし」

4 胸骨圧迫開始（2分間）

※エアロゾルの飛散を防ぐため、胸骨圧迫を開始する前に、ハンカチやタオルなどがあれば傷病者の鼻と口にそれをかぶせます。マスクや衣服でも良い。

○胸の真ん中を「強く、速く、絶え間なく」圧迫する。

○速さは1分間に **100～120回** 深さは **約5cm**沈む程度

5 AEDの패드装着

○AED到着後、パッドを装着する。

○「水気なし、ペースメーカー・埋め込み式除細動器なし、貼付剤なし。」

6 電気ショック実施

○安全確認！「私よし、あなたよし、周囲の安全よし。」

7 AEDの音声に従い処置を行う

○2分毎にリズムチェック（再解析）を行う。

※ 救急隊の到着後に、傷病者を救急隊員に引き継いだあとは、速やかに石鹸と流水で手と顔を十分に洗う。

傷病者の鼻と口にかぶせたハンカチやタオルなどは、直接触れないようにして廃棄するのが望ましい。